

ナベコウの繁殖生態

張興録

吉林省長白山自然保護区科学研究所

訳 福井和二

ナベコウ (*Cionia nigra*) は世界絶滅危惧種として保護対象動物となっている。彼の繁殖生態に関する国外での研究は多くない。これにより、我々は1976年から1980年まで、長白山においてその繁殖生態を観察したので結果を以下に報告する。

1. 分布と個体数

長白山でのナベコウは海拔700~1000mのチョウセンマツと落葉広葉樹混交林帯で、長白山の北麓の800km²の地域に0.75羽/km²とわずかな数が生息している。

生活習性；ナベコウは長白山においては夏鳥で、毎年3月下旬から4月にかけて渡来する。この頃は長白山はまだ寒く、氷雪の上に、よくナベコウの大きな足跡が残っていることがある。渡来時は2~7羽の小群で行動し、浅い河辺や沼沢で採食した後、水辺の石の上などで長時間立ったまま休息している。視覚、聴覚が非常に鋭敏で、遠くから人の気配を察知するため、接近するのが困難である。

9月下旬から10月の始め頃に南へ去り、滞在期間は7ヵ月と長期におよぶ。渡りに際して飛ぶ高さは50mほどである。飛ぶときの姿勢は、頭、頸を前に伸ばし、両脚はそろえて一直線に尾よりさらに長く伸ばし、羽ばたきは緩慢、3~5回羽ばたいた後、翼を伸ばしたまま滑空姿勢に入る。渡来すると早々に分散して番をつくり、4月中旬には古い巣を利用するか、新しい場所を探して営巣を始める。

2. 繁殖

営巣環境；ナベコウがよく営巣する場所は河辺のチョウセンマツと落葉広葉樹の混交林地帯である。我々が観察した巣は、河から約70m離れた崖の中程で、この崖は南北が約140m、高さ15.2m、崖の上と下は共に針葉樹と落葉広葉樹の混交林により構成され、針葉樹はほとんどがチョウセンマツで、少数のモミ、トウヒ、イチイがある。広葉樹は大青楊 (*Populus cathayana*)¹、柞 (*Quercus glandulifera*)²、糠椴 (*Tilia mandschurica*)³、シラカバなどである。巣は崖の上部の突き出た、岩棚または、イチイの倒木の間にあり、巣の前には崖の間から生えた大青楊の樹冠があり、巣を被う形となり、日中の直射日光を遮蔽している。

巣材は乾燥した木の枝をお使い、浅い皿状の巣の内部は少量の草の混ざった藓苔を敷いている。ナベコウは古巣を何回も使用する習性があり、1976年に発見された巣は1980年まで利用されていた。

ナベコウは年1回繁殖し、4月下旬産卵する。1976年筆者が観察した巣にはすでに雛が3羽おり、1980年には3卵が観察された。卵は楕円形、乳白色、淡い橙色の不規則な斑点がわずかに見られ、平均卵重は64(66~68)g、サイズは平均49.7(49~50)×66.3(65~67)mmであった。

育雛および雛；1) 育雛；雌雄共同で育雛する。25日齢までは雛が常時巣の中において、雛の保温、保護にあたる。雄は外へ出て餌を運んでくる。巣へ帰ると直接巣へ入らず、5mほど離れた岩棚に止まり、5分ほどして巣へ入り、食べたものを巣内に吐出し、雛は自分でこれを争って食べる。吐出しは3回に分けて行われる。雛は親鳥が帰ってくるとふ臆で立ち、絶えず頭を振り、翼を震わせ、“sha, sha, sha”と絶えず叫びながら、親鳥の吐出した餌を食べながらも叫び続

け、一口一口争って食べる。そ嚢が一杯になっても食べ、食道が一杯になるとやっと満足するようで、雛は異常なほど貪欲である。親鳥が1回に持ち帰る食物は330g余りで、67日齢の雛2羽が飽食するまで食べても88gの余剰があった。通常1日2回給餌し、育雛後期(60日以後)には3回給餌することもある。しかし、人的干渉を受けた場合は終日給餌しないことがあった。

2) 雛；雛が巣にいる期間は75日、この期間3日ごとに体重および各部の生長状態を測定した。

41日齢までの体重の増量は急速で、平均増量75.3g/日で、41日齢で体重は最高(3013g)に達し、巣立ち直前(73日齢)の体重は2842.5gと減少していた。翼長は風切羽の先端が開き始め(17日齢)てから53日齢に至るまでの増長が迅速であった。嘴峰は20日齢までの増長が早く、その後は緩慢となった。ふ臆は45日齢までに成鳥と同程度に達した。体重は41日齢から増減を繰り返しがて下降した。

雛の形態的变化；孵化したばかりの雛は全身汚れたような白色絨毛に包まれ、特に背中に密集し、前腹部の絨毛は粗く生え、下腹部は裸出している。嘴の基から中央部にかけて濃い黄色、先端では淡黄色となっている。眼周は灰緑色、眼はわずかに開いている。脚は肉色で弱く無力である。

11日齢；背中が灰白色となり、絨毛の密度がさらに増し、腹部の絨毛は比較的密度が粗い。翼の皮膚は青みがかった灰色。眼周は黒褐色。嘴の色はさらに深くなる。ふ臆および趾の色は肉色から緑黄色に変わり、ゆっくりと歩けるようになる。

17日齢；初列と三列風切羽の羽鞘が破れ、灰黒色の羽毛が絵筆のように生え始めている。次列風切羽は羽鞘が破れ、灰色の羽毛がのぞいている。胸と腹部の中央は皮膚が裸出している。嘴と口もとの膜は橙黄色。ふ臆と趾は灰青色に変わるが、爪は灰黄色である。

20日齢；背中の色が暗灰黒色に変わり、風切羽、大雨覆および尾羽の羽軸が全て破れ、黒色を呈する。

22日齢；風切羽および雨覆が全て青灰色がかった金属光沢を帯びた黒色と白色絨毛が混じって“八”字形の黒斑となっている。尾羽の羽軸は青みがかった灰色で先端の羽は黒色、上尾筒も黒色を呈し、下尾筒は白色。嘴の先端の黄色部分は次第に広がり上嘴の中程に至る。爪は明るい灰色。短時間であるがよく立つようになる。

33日齢；嘴先端の黄色部分が黄緑色に変化し、嘴の2/3ほどに広がる。頭頂の白色絨毛は密で長くなる。黒色の肩羽が広がって後部とつながり、絨毛と混在し“八”字形であったものが“V”字形黒斑に変わる。

41日齢；体全体が完全な羽毛に被われる。背中は黒色、羽縁は帯緑黒色で金属光沢があり、鱗片斑を呈する。胸部から腹部は白色だが、1羽の雛については肛門付近に少量の黒色短羽があった。両脇の羽毛は比較的少ない。ふ臆および趾は黄褐色、爪は青身を帯びた灰色、後趾はすでに分離し、前3趾の間にはわずかに半蹼が出来ている。

57日齢；頭部の白色絨毛が全て消失し、黒色となり、頭頂は最も深い黒色となる。眼周の肉膜は黒褐色で虹彩は褐色、嘴峰中央部に朱赤色が現れる。

63日齢；全体に羽毛が豊になり、絨毛は姿を消す。雨覆、風切羽の内弁の金属光沢が緑色から紫緑色に変わることにより、上背の帯緑色鱗片斑は暗色に変化する。

73日齢；体格は成鳥と変わらなくなるが全身の黒色部分がわずかに淡く、黒褐色で、嘴、ふ臆、趾も成鳥のように鮮やかではない。すでに短距離ではあるが巣から出て飛びまわる。75日

齡で巣立ち。

3. 食性

ナベコウの食性は単純で、主に魚類を食べている。カメムシ、オサムシ、ケラなどの昆虫と草の種子をわずかに食べていることがある。

観察によるとナベコウの食物選択には差があり、餌を与えれば各種の鳥肉、牛肉、羊肉などのほか、ヘビ、カエル、トカゲからトウモロコシなど穀類も食べる。しかも、食べる量が非常に多い。67日齡の雛での試験では、一度に83gのハヤを食べ、45日齡の雛がヘビ1匹を飲み込んだ。

訳注

- *1 大青楊(*Populus cathayana*) 遼寧省、河北省、四川省、チベットなどに分布し、海拔1500~2600mの日陰斜面、谷川の岸辺に多い。
- *2 柞(*Quercus glandulifera*) 山東省、河南省、陝西省、長江流域、江西省、朝鮮に分布。海拔1000mの山地に多い。ブナ科、コナラ属の樹木。
- *3 糠椴(*Tilia mandschurica*) 東北、内モンゴ、河北省、山東省、ロシアに分布。シナノキ科の樹木。